

[🏠](#) [医師](#) [若手医師・医学生](#) [看護師](#) [薬剤師](#)[eディテール](#)[医師TOP](#)[NEWS & REPORT](#)[連載・コラム](#)[特設サイト（医療経営／癌 他）](#)[学会カレンダー](#)[🏠](#) > [医師TOP](#) > [REPORT](#) > [向精神薬になったデパス、処方はどうする？](#)

REPORT

[⊕ 連載をフォロー](#)

トレンド◎ベンゾジアゼピン系薬の安易な処方に警鐘

向精神薬になったデパス、処方はどうする？

2016/11/22

増谷彩＝日経メディカル

[🗑 精神・神経](#)[🖨 印刷](#)[シェア 0](#)[0](#)[ツイート](#)

骨折や認知機能低下のリスクに

エチゾラムは短時間作用型のベンゾジアゼピン系薬であり、睡眠薬として使ったときも翌朝への持ち越しが少なく、安全だと捉えている医師は少なくない。また、エチゾラムは「睡眠に引き込まれるような」（松本氏）使用感があるといい、患者が効果を感じやすい。そうした事情から、長期間継続的に処方されやすかった。

しかし、エチゾラムなどのベンゾジアゼピン系薬および非ベンゾジアゼピン系睡眠薬の服用を長期間継続すると、処方された量で適正に使用していても精神依存および身体依存が起こる「常用量依存」を生じる。また、筋弛緩作用による転倒・骨折のリスクもある。因果関係は不明な部分もあるが、「転倒して大腿骨頸部や腰椎の骨折で搬送されてくる高齢者の中には、エチゾラムが処方されている例がかなり多い」と上條氏は実感している。

最近の調査でも、ベンゾジアゼピン系薬は骨盤や大腿骨の骨折リスクを1.33倍増大させると報告された（Requena G, et al. Pharmacoepidemiol Drug Saf. 2016 Mar; 25 Suppl 1: 66-78.）。他にも、ベンゾジアゼピン系薬の使用経験を有する群は使用なし群に比べ認知症発症リスクがオッズ比で2.94倍、非血管性認知症に限ればオッズ比3.59倍高まるという報告



「ベンゾジアゼピン系薬および非ベンゾジアゼピン系睡眠薬を80歳以上の高齢者に処方するのは控えるべきだと考えている」と語る埼玉医科大学の上條吉人氏。

(Gallacher J, et al. J Epidemiol Community Health. 2012 Oct; 66: 869-73.) や、アルツハイマー型認知症患者にベンゾジアゼピン系薬および非ベンゾジアゼピン系睡眠薬を使用した場合、認知機能低下のリスクがオッズ比で2.77倍高まるという報告 (Chen PL, et al. PLoS One. 2012; 7: e49113.) など、転倒・骨折リスクや認知機能低下リスクを増大させる薬物として、特に高齢者では注意が必要と指摘されている。

上條氏は、「ほかにも、高齢者にエチゾラムを処方するとせん妄が起き、幻視や見当識障害が生じて暴れたりすることがある。高齢者のせん妄や骨折は生命予後を悪化させることもあり、特に80歳以上の高齢者への処方控えるべきだと考えている」と話す。

既に処方している患者について松本氏は、「現時点で認知機能の低下やふらつきなどの問題がないのであれば、必ずしも今すぐ中止する必要はないが、睡眠衛生指導などを行って薬物療法だけに頼らない努力をすべき。境界性パーソナリティ障害や飲酒習慣がある人など、乱用や依存形成をしやすい人は中止した方がよい」と話す。

Next 難しいベンゾジアゼピン系薬の切り替えに成功 ➤

<

1

2

3

4

>

シェア 0

0

ツイート

この記事を読んでいる人におすすめ

記者の眼

睡眠薬・抗不安薬の乱用に歯止め掛かるか

2016/10/06

REPORT

入院中のせん妄はラメルテオンで予防できる！

2015/04/16

2015年3月号特集◎攻めの不眠診療

睡眠薬は「休薬」を視野に導入

2015/03/13